

施設協

令和4年度 福祉を学ぶ学生のための施設職員との懇談会
「社会福祉施設の若手職員に聞く
ふくしの仕事」を開催！

施設職員が福祉の 魅力を発信

大阪市社会事業施設協議会（経営委員会）、大阪市福祉人材養成連絡協議会、市社協は11月26日、三者共催事業として「福祉を学ぶ学生のための施設職員と懇談会」社会福祉施設の若手職員に聞く「ふくしの仕事」を開催しました。

この企画は、今年で4回目となり社会福祉施設で人材確保と定着が課題となっていることを背景として実施しています。会場参加とオンライン参加を併用した懇談会には、福祉を学ぶ、または福祉に関心のある大



▲今年は会場参加とオンライン参加併用で開催

学生をはじめとして関係者も含めた計46人が参加しました。

まず、児童養護施設、保育園、特別養護老人ホーム、救護施設、障がい者施設の若手職員12人が登壇し、それぞれの施設を紹介。そして「今の仕事に就いたきっかけ」や「仕事のやりがい」を語りました。やりがいについては、「利用者さんや子どもたちと関わることで元氣をもらっている」「悩むこともあるが分かりあえた瞬間に喜びを感じる」といった日々の関わりの中でエネルギーを得ながら、仕事の原動力にしているという言葉が多く聞かれました。その後の質疑応答では、会場だけではなくWEB上でも質問を募りながら、多くの質問に答える形で進行了しました。

終了後のアンケートでは、「自分の関心のある分野も、今まであまり考えた事がなかった分野も広く知ることができとても充実した時間でした。特に若手職員の方から聞けるといいうのが、他にはない魅力なのでまた機会があれば参加したいです」（大学2年生）。「それぞれの特徴ややりがい、時には本心が

聞けたので、いろいろと考えて仕事されていることがよく伝わってきました」（大学1年生）。「実際に働いている職員の方の話を聞く機会は貴重だと思いました」（学校教員）などの声がありました。

今後、本誌と大阪市社会事業施設協議会ホームページの連動企画として、登壇職員による話を一問一答形式で紹介予定です。当日語られた福祉の仕事の魅力を中心にまとめますので、ぜひお読みください。

当日の質疑応答から

Q 学生のうちにやっておけばよかったこと、就職活動の方法を知りたいです

A (障がい) 就職先の視野を広げるために、さまざまな施設の見学に行けばよかったと思っています。施設のイベント時などのボランティアに参加することもおすすです。

(救護施設) 福祉施設の就職フェアに参加して、そこで配付されたチラシを見ながら施設見学を申し込むなど、積極的に行動していました。

(保育) 市内の保育園の一覧をネットで確認してすべての保育園のホームページを見たうえで、自分に合うかどうか検討し、見学に行き就職しました。

Q 障がい、高齢分野に興味がありますが、自身が小柄なため、介助ができるか心配です

A (高齢) 体格に応じて職員さんは各々、介助のコツのようなものを持っているので、先輩に聞けば大丈夫です。リフトや介護ロボット、車いすになるベッドを利用している施設もあります。

(障がい) スタッフ同士で、その方に適した介助方法を共有するようにしています。フォローが必要な時にはインカムで呼び合い、お互いに支え合える体制が整っています。

Q 支援を必要としないと思われ方や攻撃的な行動をされる方と、どのような関わりを心がけているか知りたいです

A (児童) どんな反応を示したとしても、子どもたちが本心で関わらないでほしいということはないと考えています。

(救護施設) 日々のコミュニケーションのなかで、徐々に距離感をつかんでいきたいと考えていますが、人によって、距離感や接し方は変える必要があります。

(障がい) チームで働いているということを意識して、上司、同僚に相談しています。どうしたいか利用者本人に聞くこともあります。



▲参加者からの質問に、進行役が指名しながら回答

登壇した若手施設職員



■児童福祉施設（大阪市児童福祉施設連盟）

高津学園 坂口 知輝さん
聖家族の家 菊池 虹香さん

■保育施設（大阪市保育連合会）

天使虹の園 村上 晴香さん
天使保育園 加藤 貴成さん

■保育施設（大阪市地域福祉施設協議会）

北田辺保育園 近藤 桃夏さん
北田辺保育園 西岡 実乃里さん

■高齢者施設（大阪市老人福祉施設連盟）

加美北特別養護老人ホーム 齋藤 愛さん
特別養護老人ホームゆめあまみ 橋本 彩乃さん

■生活保護施設（大阪市生活保護施設連盟）

救護施設 三徳寮 山内 風知さん
救護施設 三徳寮 新川 愛実さん

■障がい者施設（大阪市障害児・者施設連絡協議会）

エフォル 宝来 歩実さん
スカイ・アンドロメダ 田中 愛さん